

昭和13年7月1日（金）

曇り。愛子乳出ぬらし、絶食の為なるべし。今朝、人造乳にて呉れたるも喜ばざる模様なり。是永氏、誰か不幸ありとて正午退局。為替財産係、服務状態調査票発送す。今朝も痔出血あり。別に痛みを感じざるも甚だ気持悪し。是永氏の代わり永江氏、五時帰る。外出例の如し。

昭和13年7月2日（土）

朝降雨、長靴にて和傘持ち出勤。此朝、愛子おも湯飲みたるらし。女中より頼まれたる手紙、久子宛のを持来る。雨は次第に歇み、午後曇天の儘、継続。午後一時二十分出發。傘は永江氏方に托し置く。定時出發。四時四十分電車に乗り、五時に五分前到着。間もなく夕食。髯剃り後、七時四十分真の郷に至る。渡辺通一丁目にて三台高等学校前行き五分待つ。十分遅れ到着。桑原氏に高等学校前にて会す。既に祝詞終わり、先生より色々話あり。陛下の御写真を拝して何を感じるかとのことでしたが、先生は「ご苦労さま」と思ふて礼拝すると仰言る。十一時帰る、十一時四十分到着。蚊帳吊りあり。其の俣、寢床。傘持ち往復せり、割合快晴。

昭和13年7月3日（日）

晴れ。夕食後、久子と松屋より玉屋に行き、麻オープンシャツ3、50求め、鮭缶20銭求めバスにて帰宅。10銭にて夏蜜柑求めたり。此日、人出甚だ多く各デパート雑踏す。福引引き10銭当たる。一番小額らし。バス代、余支払ふ。猶昨、久子に中津に於ける労を犒（ねぎら）ひ壹円遣る。此の朝は痔出血せざりし如し。

昭和13年7月4日（月）

朝より少しく雨。一時歇みたるも、夕方より再び降雨。手紙書く。丹治氏佐藤氏中尾氏、及び二郎へ。二郎へは葉書にて認む。夕方投函せんとしたるも、雨甚だしく止む。十時寢床。

昭和13年7月5日（火）

五時二十分、雨歇みたるを機とし投函す。取集時刻に変更ありしか、朱一色に塗潰しありたり。間もなく再び降雨。新聞六時半頃、配達になる。敵機五十台撃墜、或いは爆破の快報あり。昨夜ラジオにて発表ありしもの。本日より一週三回、中支へ飛行便発着書状四十銭とあり。久子職業紹介所に至り、明治製菓へ紹介状を持参す。昨、久子より秀夫に依頼せし由に付き、職業紹介所の方、専門的にて確実なる旨、注意せしに由る。雨歇む、一時陽ありしも間もなく再び曇る。二時より剃刀磨ぐ。女中子より写真送付越す。四枚五十銭の由。久子より贈れる簡単服、着用し居る。午後四時夕食。六時、道子久子を連れ会社に行く。三尺褌を作り貰ふ。恰度、晒し木綿四尺程見付かる。之を二つ折りとし二筋出来る。夜まで降らぬ。十時寢床。

昭和13年7月6日（水）

午前四時三十分、平常通り起床。六時三十分朝食、七時三十分出発。久子より姉やに遣る風呂敷包みを持ち、出発。降りそうの天候。バスに乗り南新町下車。徒歩、駅に至り新聞紙を求め、定時発車。降雨せず。十一時半中津着。此朝、塩辛物を食べた為、喉乾くこと甚だし。四時四十分帰途に就く。余の土産、悦子へ人形贈る。風

呂沸き、巖の後より入浴。道子より愛子へ手紙ありしか、昨年求めし開襟シャツ保管しありと云ふ。

昭和13年7月7日（木）

朝七時より、悦子連れ神社に詣で一巡し来る。蒸暑し。長靴及び和傘にて降雨に対する用意をなす。昨、猛雨。和傘托しありて都合よかりしに鑑み、此日も大降りにならぬも期し難しと認めればなり。然るに和傘は、往復共お伴に過ぎざりし。国債報労金九円到着。永江氏4,00、守谷氏と余は2,00、是永氏1,00、計九円分配したり。蒸暑く流汗淋漓。ワイシャツ脱ぎ、襦袢一枚にて報務帰りに、ライオン蚊取り渦巻き線香27、悦子靴18銭にて求め、線香は毎朝便所にて蚊に刺られるを虞れたるに外ならず。夕方、悦子連れ神社前に至る。水浴せり。

昭和13年7月8日（金）

多少雲行き繁かりしも、概して快晴。昨正午、局員と一分間、正午黙禱せり。和傘も此日はお伴に過ぎざりし。八日は概して良好。代金受取拒絶、損害ありと主張す。乃ち立会の上改めたるに、鋳泉二瓶の内一ヶ破損。損害調書作成、郵便物還付せり。午後四時四十分、退局。五時十分帰宅。珍しく外出せず、新聞を満足に見るを得たり。夜、禪洗濯。乾燥す。

昭和13年7月9日（土）

晴天、飴色靴を穿き出局。今朝も多少痔に出血を見る。蚊遣香を焚く。禪乾かず、其の儘締める。単衣襦袢、羽織、袴等、持帰ることとせり。出局後、朝吹氏に依り持参さる氷水、永江氏より頂く。同氏資金請求に行き、ス

カート及び蝦不入（えびいらず）等を求め来らる。ラジオ申込みに対する手数料一円。昨放送局より交付、本日受取る。永江氏資金請求に行く。一時二十分出發、四時五十五分帰宅。久子爾来、天神町角の支店に出勤し居る由。此の日午後七時帰宅。二階両窓開放の儘寝る。風強く往々蚊帳を捲り上ぐ。暑氣可なり強くなる。

昭和13年7月10日（日）

朝十時、久子出勤時に澄子と一緒に余も市場に行く。釘六ヶ求め帰る。サバ及び素麺二把、網渡し等求め来る。麺は一把九銭、網渡し六銭、釘六銭。此夜十二時過ぎ久子販宅。夕食は馳走あり、多量に食ふ。此の為、喉乾くこと甚だし、湯冷ましを飲む。九時半寝床。

昭和13年7月11日（月）

夜半少雨。風強く、しぶき蚊帳内に侵入す。急で窓を締む。蒸暑きこと甚だし、雷鳴。此の朝、五時澄子起床。久子七時三十分出發。澄子は昨夜殆ど一睡せずと云ふ。十二時過ぎまで起きて居っては眠れぬとこぼす。時々、驟雨来たるも極少量。吊り旗樹つ。今日の新聞、飯塚市松田助役は苅田町長に転じ、彦根市助役石坂久吉氏後任となる。氏は鎮西村の人。広美より葉書あり。藪内敬之助氏、手塚様に同窓会誌を見て感ありとして通信す。午後曇天。蒸暑く風強く、夜に至るも風がず。久子六時過ぎ販宅。当分夜勤せず、馴れるまで早出を継続することとなりし由。二階に来て手紙書きし居る。夜、窓開放の儘寝る。風強くして、冷えて夢醒む。階下では早く寝たる様子なり。

昭和13年7月12日（火）

曇り、時々驟雨模様。今朝は市場への買物に道子出掛く。0時40分髯剃り、澄子に理髪し貰ふ。向家の権君と高藤と云ふ世話人夫婦とが、何か争ひ居る。昨朝腹脹る様、療治の結果と、朝食一碗に減じた為、異状なかりし。昨夜素麺、今朝も残り物を戴く。午後五時飯塚に行くこととし、四時過ぎ夕飯を済まし五時出発。飯塚行きバスまで箕島よりバスにて西中洲に、夫れより徒歩にて駅交叉点、呉服町に至れば急行に間に会ふ。拾五銭割増とらる。其の代わり快適、一時間にして中央停留所に達す。祇園山一台あり。旭町は川を渡り、後藤寺行きバスの通路に当たる。坂本方を訪ふ。広美風邪にて、三日間休暇を得居れりと云ふ。彼の部屋は八畳に二名居る内、一名は泊まりにて、広美一人なり。小柳氏が国債を売り付け、代償的に広美に押し付けん魂胆らしと云ふ。十時寝床、蚤（のみ）多く眠り得ず、夫れに二階にて瓦が熾け居ると見え、蒸暑く当惑せり。其の儘夜明く。

昭和13年7月13日（水）

四時三十分起床。便所に行きたるも水浴し得ず。五時四十分、此日飯塚局の遙拝納祖八幡宮にて挙行の定例日に相当、皆出発す。局員七名居ると云ふ。六時余出発、中央停留所に至る。一番行橋は六時三十分と云ふ。芳雄に至り、七時三分発産業線にて1, 21円、定時発車。行橋にて急行に接続す。次の発車まで一時間余、新聞を見る。十一時の汽車にて出発、同三十分到着。驟雨あり、ネエヤ長靴及び和傘持参せり。五時帰りにも雨降り、途中より翳す。昨、嬰兒五十日自祝菓子折り、永江氏朝吹氏に返礼せりと。永江氏より礼述べらる。風呂沸く。

昭和13年7月14日（木）

午前晴れ、午後曇り。午前十時半裁判所に行き、検事局に行き証拠書を貰ひ、更に中津局に行き切手請求。正午飯局。四時四十分帰宅。

昭和13年7月15日（金）

快晴。代引き振替口座大阪に組込みし処、口座なき旨にて返戻あり。仍（よ）って午後三時三十分、受取人豊田町二丁目高橋鉄次。理髪店に行く。口座大阪は東京の誤りと判明。

昭和13年7月16日（土）

快晴、午後一時二十分出発。此日、切手請求に永江氏行くべく仕度しかけるを、月曜に葉書を持来す約故、月曜にせよと注意せり。五時帰宅。髯剃り、城西橋真の郷会に至る。通知せざりし由にて、会する者学生二人、外に婦人一名に過ぎず。帰りに胡瓜（きゅうり）三本頂き、十一時過ぎ帰着。此日往路は電車、高寸学校止まり一台にて、正八時到着。行事に間に合ふ。

昭和13年7月17日（日）

午前六時朝の托鉢、水郷天満宮に至る。拝殿を大掃除す。此日他の青年団の奉行ありしも、拭き掃除は我会の独占場なり。柳原先生夫妻、学生、松尾氏山崎氏と余、而して桑原氏は直方行き不在。七時三十分引揚げ。午後七時三十分より星野病院に行く。此日十時、唐津より北野氏訪ね来たり。三十分程咄して行橋に向け出発。徴兵検査の為とあり。同氏官練受験猶予中の者。次いで午

後四時、桑原氏来訪。会計差引きを済まして帰る。八時行事中、柳原先生、松屋会女子部に臨まれ、九時三十分再び出席。十一時半閉会。

昭和13年7月18日（月）

快晴。箕島局に年金受取りに行き、前日会計を貯金に預入れる手紙書く。藪内先生より返事来る。御夫婦共、御病気は実際なりしとあり。岡田光邦より松木氏の居所通知越せしにより、此日手紙書き、昨年十二月返戻されし手拭いをも合封す。九時蚊帳に入る。

昭和13年7月19日（火）

快晴。久子此日より夜勤の列に入る。十時出発せる如し。余午後一時羽織まで着用して松屋に至り、洋菓子23を求め、藪内先生の為に文旦漬け四百五十匁1, 35、小包料30発送。岩田屋にて蚊取り香13、打ち枝器75求め、柳町市場にて素麺三把21、赤インキ9求め、三時過ぎ帰る。痔出血、一張羅を汚す。下帯洗ふて貫ふ。夕方まで乾燥す。他の下帯作成す。夜八時秀夫来宅、子供連れて来る。十時過ぎ帰る。夫れより寝る仕度し、十時半、蚊帳に入る。

昭和13年7月20日（水）

昨夜、素麺の残りを食し、更に蒸しパン作りたるを半分食ふ。痔出血も本朝続く、胃腸障碍ありしものの如し。此の夜、南瓜天麩羅等の外、茄子の千切り生にて食す。此夜下痢入廁出血す。尤も帰ると共に下帯紅く染めたる為、身体を洗ふ際、併せて洗濯す。

昭和13年7月21日（木）

朝欠食。夜半も莫産に出血汚す、女中に洗ひ方頼む。午後牛乳三本を飲む、二本分支払ふ。山本元記者、手相を見て上手なり。局員中見て貰ふ者あり。午後四時五十分、帰るさ駅電信取扱所に至り、松田巳ノ助氏苅田町長当選を祝賀、電報を発送したり。夜半、熟卵一ヶ啜る。夕食を欠く。便所に行かず、下帯再び洗ふ。

昭和13年7月22日（金）

襦衣（しんい）ワイシャツ新しく洗濯したのと換ふ。巖、五時出発、釣りに行く。昨夜、釣り具手入れし居れり。普通小包当局に受付けなきものを、更に受取人より照会越せり。警察の裁きに任す。朝は粥食す。午後、腹融けたる感あり。本年は暑中羊雲なし。昨、牛乳飲み活気づく。此日も待てど遂に不来。聞けば北浦町にも配達せざりし由。夕食粥にて済ます。巖七時頃来る、獵少なかりし様子。幾らか下痢気味ありしも落付き、十時寝床。

昭和13年7月23日（土）

朝の間少し曇り。風涼し、次第に晴れ。二十日より土用、八月七日まで十八日間とあり。十一時印紙請求。生憎、購入なし。既に永江氏局に行き居る故、追加請求の形式にて追加分現金持行く。待合いに永江氏不在。二階に上がりて中野氏に事情を述べ、其の足にて警察に行き、刑事室に至り、例の小包の件を話す。文書と対照して承知し呉れたり。正午飯局。牛乳、此の日は配達を受く。零時30分永江氏来局。余一時二十分出発、五時自宅到着。澄子は秀夫の家内病氣、昨日より手伝いに行き居ると云ふ。曩に妻女流産し、久子加勢に行きたる由なるが、今

度は久子に仕事あり、澄子が代わって行けるものの由。今朝まで粥食なりしも、夕食は普通食とする積もりなりしが、軟かに煮たる御飯あり、夫れを食することとせり。鰯及び鯖の煮付けあり、トマトもあり。夏蜜柑売り居るを見、道子に二十銭を遣はす。八個を得たり。夜風涼しく早く寢床。久子も澄子も帰宅。

昭和13年7月24日（日）

澄子は秀夫の家は蚤（のみ）が多く眠られぬと。此日、日曜日故、秀夫が居るから販れりと云ふ。久子は七時半出発、澄子は家に居る。十時、野見山八郎氏戸畑より来訪。色々話して午後二時販れり。朝鮮産金会社に行くと言ふ。目下ペンキ塗りをやり居る由。薬院に近くと云ふ。より近路を教へ遣れり。此日五時過ぎ、久子販宅。早く寝る。

昭和13年7月25日（月）

北風強し、涼し。中尾氏、衣川氏に手紙及び葉書認む。此の朝澄子秀夫方に、久子は十時半勤め先に行く。四時投函。序でにトマト拾銭、夏蜜柑は売切れ、南瓜一ヶ拾銭求め来る。昨夜の南瓜は不味にて、僅かも食へざりし故なり。一昨求めし夏蜜柑は一ヶ腐敗せり。此頃のは皆腐敗の惧れありと思はる。向家より子供の誕生祝いに、紅白餅参ヶ送らる。夜澄子一旦帰宅。南瓜を求め来たり。再び秀夫方に戻る。久子も秀夫方に泊まる。

昭和13年7月26日（火）

昨同様北風涼し、土用とは思われぬ気候なり。夜分の如きは初秋の気温を呈す。夕方髯剃る。澄子居らず、道子

一切を処理す。此日ラジオは九江占拠を報ず。藪内先生より、文旦漬けに対する礼状を送り越さる。夜素麺二把煮たる由なるも、多分に剰る。九時半寢床。

昭和13年7月27日（水）

前夜の素麺を食す。七時三十分出発。徒歩、駅に至る。二十分近く早し。新聞求め、定時発車。十一時半到着。給料を分配す。六月分物品代を差引かれ123円余りにて、拾円巖に渡したる為、残拾円余りに過ぎず。愛子乳腺炎発熱、疼痛を伴ふ由。巖釣り魚に朝吹氏と行き、四時過ぎ販る。不成績に終わりし如し。夕食に粥食す、恰度準備ありし為。

昭和13年7月28日（木）

快晴、暑気強きも多少風あり。区画便覧訂正、正午までかかる。初め永江氏により着手しありしを、余が無理に受取り着手す。須藤氏よりの葉書、日高氏人間道廻送越しあり。夜、豆トマト馳走あり。巖掃除を遣り、赤ん坊に湯を浴びせ大いに活動せり。姉や手紙書き。

昭和13年7月29日（金）

灼熱の暑さ、午後三時頃より少降雨。那須巖氏、今朝余を訪ふ。何か土産を置き福岡に販りし如し。遂に面接の機を得ざりし。午後四時五十分帰途に就く。巖に明日、葉書運搬方依頼す。近頃月末早く引上げ販る。午後九時十分頃、床展べて貰ふ。長靴、傘届く。

昭和13年7月30日（土）

昨降雨。長靴及び和傘を巖持参せるも、帰る頃、雨は

歇み傘は翳さず。長靴は調法せり。此日も朝来曇天、降りそうに見ゆ。十時永江氏、切手請求に行く。此日ラジオ申込み一件あり、手配したり。午後一時二十分出発、巖氏より贈られし土産持参。五時に五分前到着。曇天の儘、持越し割合に涼し。久子販り、パンを余の為に求め来る。外に屑菓子、是は森永製。食後なりしも貪りし。寔（まこと）に自制は難しい哉。午後十時近くまでラジオを聴く。

昭和13年7月31日（日）

驟雨、時に到る。朝十時過ぎ久子出発す。暑中見舞いを貰ひし須藤、永末、山口三氏と第一生命に発送の葉書認む。夕方トマト求めしむ。頗る騰（あ）がる。此の日も頗る涼し、風強し。